

# I 相模湾・東京湾（駿河湾を含む）

## 水産海洋調査研究に関する座談会

主 題 本年冬春の漁海況の特徴

日 時 昭和43年6月24日 11:00～17:00

場 所 東海区水産研究所 才2会議室

コンピーナー 平 野 敏 行

出席者 約 60名

話題および話題提供者

- |                          |                                      |
|--------------------------|--------------------------------------|
| 1. カタクチイワシの生活様式と最近の漁況の特徴 | 近藤恵一（東海区水産研究所）                       |
| 2. 気象と海況（1963年との比較）      | 進士福太郎（気 象 庁）                         |
| 3. 最近数年の黒潮の変動について        | 二谷頼男（水 路 部）                          |
| 4. 本年冬春における房総沿岸の海況と漁況    | 上村清幸（千葉県水産試験場）                       |
| 5. 本年冬春における伊豆諸島を中心とする漁海況 | 阿部 登（東京都水試大島分場）<br>代読 上原 進（東海区水産研究所） |
| 6. 本年冬春における相模湾の海況・漁況     | 中田尚宏（神奈川県水産試験場）                      |
| 7. 昨年冬から今年の春にかけての海況の特徴   | 五十嵐正治（静岡県水産試験場）                      |
| 8. 黒潮の異変について             | 藤森 完（東海区水産研究所）                       |

### 1 カタクチイワシの生活様式と最近の漁況の特徴

近藤恵一（東海区水産研究所）

#### 1) はじめに

カタクチイワシの生物学的研究は昭和24年度以降全国的組織規模で実施されている「沿岸重要資源調査—発足当時はイワシ資源調査」によつて、推進されてきています。カタクチイワシは自然界における生態的地位として被食者の立場にあり、食物環における低次の生物である<sup>1,2)</sup>と共に、人間によつて漁獲されたものもカツオ、サバ釣り漁業あるいは増養殖業などの餌料として利用される面が大きく、そのため、直接人間の口に入る他の魚類資源よりは、その重要性が2次的に感じとられやすいのではないかと思います。しかし東海区海域にはシラス～成魚期にいたるあらゆる発育段階のカタクチイワシが生息しており、それらの漁獲量は全国総量の半分近く、あるいは、それ以上を占めているところから、われわれはとくにカタクチイワシを重要視して研究しています。われわれはイワシ資源調査の初期の段階ではカタクチイワシ（種個体群）の生物学的な諸性質の研究、すなわち年齢・成長の問題<sup>3)</sup>、成熟<sup>4,5)</sup>肥満度<sup>6)</sup>あるいは季節的な発生集団指標としての